

2023 中期 会長メッセージ

イタリア大会には合計 122 名の会員が出席した（ヨーロッパと英國 47 名、米国 30 名、オセアニア 25 名、日本 15 名、中国 5 名）。プレ・コングレスとポスト・コングレスにはそれぞれ 92 名と 91 名が参加し、予想を上回る参加者となった。渡航制限のため中国の参加者は大きな影響を受けた。会議録と会議本「イタリア・ツバキの輝き」は ICS のホームページからダウンロードできる。<https://internationalcamellia.org/en-us/home/congress-italy-2023>。報告書は次号の ICS ジャーナルに掲載される予定。

田中教授がサザンカの基礎的なテキストを 6 ヶ月という短期間で編集、その国際作業チームメンバーは高野末男（日本）、ジャンマリオ・モッタ（イタリア）、キャロライン・ベル（イギリス）、イヴ・シャペル（フランス）、ピラ・ヴェラ（スペイン）、王仲朗（中国）である。この本は英語、中国語、日本語で書かれ 300 品種が紹介されており、ICS 秘書アンケ・コシツクが田中教授に注文することができる。これまでのところ、ICS はすでに 2,323 ポンドを売り上げている。皆さんもぜひ、次のサザンカ展でこの本を紹介（販売）してくれることを期待している。

大伴・ヘイドン研究基金に新しい理事長、セレスティ・リチャード女史（米国）が就任した。長年にわたり大友・ヘイドン研究基金の理事長を務めてくださったハーブ・ショット氏に深く感謝いたします。

ICS はアメリカの非営利団体である。したがって、非営利団体に厳しい制約の少ないアメリカに財務管理があることが理想的である。セレスティ・リチャード（米国）がモルガン・スタンレーの口座（大伴・ヘイドン研究基金）の署名人に就任した。並行して、クレア・ミリオン（英国）とフォレスト・ラッタ（米国）が英国の口座を担当する。彼ら全員に深く感謝します。

寄付金は 23,168 ポンド（29,440 米ドル）に達し、目標の 30,000 米ドルに近づいている。ヨーロッパ（86%）、日本（9%）、オセアニア（4%）、米国（1%）からの寄付である。すべての寄付者に心からお礼を申し上げたい。実は、ICS は次のジャーナルを大伴・ヘイドン基金からの充当なしで発行する予定である。

<https://internationalcamellia.org/en-us/our-organisation/donate-to-ics> に掲載されているように寄付は受付中である。これらの寄付金は米国の会員は寄付金控除の対象となる。

残念なことに、松本重雄氏が 2023 年 6 月 23 日に逝去された。彼は ICS の柱であった。彼はスペインと日本（特に大島）の優秀庭園の開発に貢献し、ICJ に魅力的な論文を執筆した。そのいくつかを紹介しよう：「韓国へのツバキ・ツアー」（2010 年と 2011 年）、「ガリシアへのツバキ巡礼」（2007 年）、「レバーケーゼンの正義の謎が解けた」（2004 年）、「肥後流ツバキ盆栽の作り方」（2001 年）などである。日本ツバキ協会が追悼文を準備中。

ICS 会長

ジャンマリオ・モッタ